

健康教育委員会だより

令和6年9月 No.2
諏訪教育会
健康教育委員会

みんなで一緒にまなぼうさい



8月5日(月) 諏訪教育会館にて3部構成で開催

第1部 シン 避難訓練 ～これからの防災訓練・防災教育～

講師：山田淳子先生(両小野中学校 教頭)



慶應義塾大学環境情報学部の大木聖子先生の防災教育に関する講義の伝達、新たな防災訓練を試みた安曇小中学校の実践の紹介を交えてのお話でした。

過去の災害で起きていないことは校舎の崩壊、過去の災害で起こったことは、地震の後は恐怖で動けなくなったり、パニックで飛び出したり、転倒で骨折したりする子どもたちがいることだそうです。過去の災害後の現象を

ふまえて、今まで当たり前のように校庭に避難するとしていた訓練のあり方に疑問が投げかけられました。災害時に自分の学校で起こりうることをイメージし、教師と児童生徒が一緒に対処策を考える訓練へ転換が必要と教えていただきました。途中のグループワークや演習を通して、災害時の対応は職員のチームワークが必須だと実感し、今回学んだ内容を自校の職員に伝えていきたいとした声が多かったです。



【 参加された方の感想より 】

- ・ 自校の状態を振り返りながら参加させていただきました。子どもたちが主体的に自らの命、友達の命も守るために行動できるよう、職員で共有していきたいと思いました。
- ・ 防災に対する意識が高まり、新たな知識を得ることができました。職員全体がチームとして動けるように発信していきたいと思いました。自分ごととして捉えることが大事だということがわかりました。
- ・ 提案、改善案の内容がたいへん具体的で理解しやすいものでした。停電時の対応など、次の自分の学校での訓練にも生かしたいものがありました。とても有意義な研修でした。

第2部 防災食 de ランチ

講師：宇佐美智也さん(日本防災士会 長野県支部事務局長)

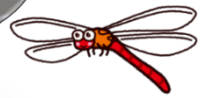


教育会館の一室にもうけられた防災食の販売コーナーに入ると、その種類の多さに目を見張りました。パン、ごはん、パスタの主食コーナー、肉じゃが、おでん缶、ウインナーなどのおかずコーナー、羊羹、クッキーなどのお菓子コーナー。「こんなにいろいろあるんだね」「どれもおいしそうでまよっちゃう」と和気あいあいとした雰囲気の中、思い思いに購入。そしてその場で試食をしながらお話を聞きました。平時に試食して、好みのもの、食べやすいものを見つけておくことが大切だそうです。また、講師の宇佐美さんご自身が能登半島地

震の2週間後に能登町の避難所へボランティアに行った時の様子について、半島の地震では道路が寸断されると避難所にたどりつくことが難しいこと、行政職員も被災しているためすぐには来られず自分たちでなんとかするしかないこと、被災地ではまずトイレの衛生管理が深刻なことなど、現地に行ったからこそわかる貴重な体験談をお聞きできました。



種類が豊富な
防災食のおかず



【 参加された方の感想より 】

- ・ 防災食を実際に食べさせていただいて、おいしさに驚きました。種類の豊富さにも驚き、たくさん種類があれば食べられるものが少ない人にもいいと思いました。能登の様子を見せていただいて、ニュースなどで見るよりもより、リアルな様子が伝わってきました。自分でできる備えは自分でしっかりやっておきたいです。
- ・ やはりあんまりおいしいものではないので、食べ慣れておくことが大切だと思いました。備蓄しておかないといけないなと思いました。実施に見た映像は現実感が増す思いと恐怖でした。だからこそその備えの大切さを感じました。
- ・ 防災食があんなに多種にわたりあることに驚きました。甘いものやお菓子を用意や子どもの好み、さらにはアレルギー対応まで「災害を想定する」ことは、本当に多岐にわたることを学ばせていただきました。また、能登の様子を見させていただき、改めて現地がいかに大変であるか、そのことが継続していることも心が痛かったです。何ができるのか、と同時に日々の備えや、日々の人との関わり(想像力を働かせる)や、いい関係づくりをしていくことも大切なのだと感じました。

第3部 「その時は必ず来る！」

～災害時に対応するために知っておくこと、準備しておくこと～

講師：金子秀夫さん(相澤病院救命救急センター救護・災害医療対策課 課長)



DMATとして実際に災害現場で活動したようすや、大規模事故や災害への体系的な対応に必要な考え方である CSCATTT について教えていただきました。その中の TTT(Triage トリアージ、Treatment 治療、Transport 搬送)の説明は、START トリアージ法という多くの傷病者を短時間で実施する方法や、ABCDE アプローチという生理学的評価の仕方など、かなり専門的な内容でした。ファーストエイドの説明では、頭部打撲のときの意識状態の確認の仕方や骨折を疑う場合の四肢の動かし方など、日頃の保健室での処置にも役立つ方法を学ぶことができました。また、最後に現場に持っていく救急バッグの中身の紹介があり、学校の救急バッグの参考にしよう、興味深々で見入っていました。

【 参加された方の感想より 】

- ・ 専門の方からファーストエイドについてお聞きする機会がなかなか無いので、大変貴重な時間となりました。得に頭部打撲の対応では、学校でも判断に迷うことがあるので、時、人、場所のことは子どもたちに聞いていきたいと思えます。救急バッグの中身も大変勉強になりました。
- ・ 最新の処置方法を知ることができてよかった。「普段していないことは災害時にもできない」の言葉を多く聞きました。常に動けるように準備を心がけたいです。
- ・ CSCATTT という考え方を今回初めて知りました。災害時はもちろん、普段の学校現場でも活用できることがたくさんあるなと思いました。トリアージ、トリートメント、学校でできることは限られていますが、その中で最善を探りたいです。

夏休み中にもかかわらず管理職の先生、防災担当の先生、養護教諭の先生など多くの方にご参加いただき、丸一日かけて防災についてじっくり学ぶことができ、充実した研修会となりました。冬には保健指導に関する研修会を予定しています。こちらもどうぞよろしくお願いいたします。

